

# 姫路赤十字病院だより



## contents

- 「姫路赤十字病院だより」の発刊にあたり
- 大森副院長就任挨拶
- 心臓血管外科 毛利部長挨拶
- 地域連携交流会の報告
- 内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ Si」導入
- 放射線治療受入れ休止について
- 3階東病棟（増床について）
- 診療科の紹介：外科・小児科
- 平成25年度 姫路赤十字病院 研修会開催予定一覧

1  
Vol. 1  
2013

# 「姫路赤十字病院だより」の発刊にあたり

「地域住民の方に安心して  
良質な医療を提供するために」

院長 佐藤 四三 (さとう しそう)



この度「姫路赤十字病院だより」を新たに発刊することになりました。今までわたしたちの病院の取り組み、各部署の取り組みなどを近隣の医療機関、医療関係者の方々に直接お知らせすることが不十分であったと思います。社会保障改革国民会議（平成25年6月10日）議事録によると、医療提供体制の重点化・効率化と機能分化・連携を謳っています。今後わたしたちの国が少子化・超高齢化を迎えるあたり、限られた医療資源で地域住民の方に安心して良質な医療を提供するためには、各医療機関が連携を今以上に深化させて、それぞれの機能を十分発揮する必要があります。お互いの顔が見える関係を構築する必要があります。わたしたちの病院もより豊富な情報を発信いたします。

さて昨年11月地域医療支援病院の指定を受けました。すでに地域周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、第二次救急医療施設として活動しています。これらの機能をさらに充実するため、本年6月1日3階東病棟を新設いたしました。これは平成23年中播磨圏域健康福祉推進協議会医療部会において、県にご了解を頂きました一般病床46床の増床

であります。この増床により当院の病床規模は感染病床6床を含め555床となります。

当院にはすでにNICU（新生児集中治療室）がありますが、この度MFICU（母体胎児集中治療室）を新設いたしました。NICU・MFICUには専門のスタッフや高度の医療機器が整備されていて、スタッフが協力して合併症を有する妊産婦さんや早産が予測される妊婦さん（ハイリスク妊産婦）にも安心してお産をしていただき、母と児の命と健康を守る体制が出来上がりました。

ICU（集中治療室）も増床して、地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院として重篤な救急患者さんの受け入れ、がん患者さんに今まで以上に安心して医療を受けていただく体制となりました。また災害拠点病院として、災害時には負傷患者を率先して受け入れる体制も充実することができます。

今後も医療体制を充実させ、医師会を中心に、地域の医療機関と連携を深めて地域医療に貢献いたします。ご協力よろしくお願いいたします。

## 大森副院長就任挨拶

副院長 大森 睦子 (おおもり むつこ)



この度7月1日付けで姫路赤十字病院副院長を拝命いたしました麻酔科の大森睦子と申します。私は阪神大震災の直後の平成7年4月から、当院初の常勤麻酔科医師として赴任し、麻酔および集中治療、ペインクリニック部門を立ち上げ、運営して参りました。中央部門の運営という仕事柄、いままでは地元の先生方との接点が少なく過ぎて参りましたが、当院は、地域がん診療連携拠点病院として、地域医療支援病院として、地域の先生方との病診、病病連携を大切にしており、今後は私もその一翼を担って行きたいと考えています。

幸い、麻酔科という科の特質から、私自身は、手術室や集中治療室の運営で院内各科との連携をとる事を得意としております。最近ではペインクリニックが主体として行っている緩和ケア部門で当科の医師と地域の先生方との連携も少しずつですが、築いてきており、それらのことを活かして、もとより微力ではありますが、頑張つてゆきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



# 心臓血管外科 毛利部長 挨拶

2013年6月に赴任いたしました。毛利 亮と申します。平成3年に広島大学を卒業後、岡山大学心臓血管外科に入局し、広島市立広島市民病院、心臓病センター榊原病院などで研鑽を積んでまいりました。主として、年々増加している大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全症などの心臓弁膜症に対する手術、カテーテル治療の進歩によりさらに重症例が増加する虚血性心疾患での外科治療を中心に、いわゆる成人心臓外科を担当してまいりましたがその他、大動脈瘤、大動脈解離などの大動脈外科、そして慢性閉塞性動脈硬化症あるいは下肢静脈瘤などの血管外科分野に対しても幅広く対応してゆきたいと思っております。

近年、これら循環器疾患に対する診断技術の進歩、新しい薬物治療や非侵襲的治療（たとえばカテーテル治療など）の発展に伴い、いわゆるチーム医療の必要性が高まっています。すなわち、ご紹介いただく患者さんにとって最適な治療を決定するために、循環器内科医とともに、治療適応を検討してゆくことが重要です。そして、年々重症化・高齢化してゆく患者さんに安心して手術を受けていただき、元気な状態で紹介医の先生方にお返しするためには、周術期管理を担当していただく麻酔科チーム、そして手術室からICU・一般病棟に至るまで、多種にわたる医療スタッフの協力が必要となります。

現在は一人体制ですが、岡山大学心臓血管外科医局の協力を得ながら、地域の先生がたの期待に応えられるよう努力していきたく思います。今後ともよろしくご厚意申し上げます。



心臓血管外科部長

毛利 亮 (もうり まこと)

資格等

心臓血管外科専門医・修練指導者  
日本外科学会専門医・指導医  
日本循環器学会専門医

専門分野

弁膜症外科、冠動脈外科  
大動脈外科、末梢血管外科

## 地域連携交流会が開催されました

平成25年7月27日ホテル日航姫路において地域連携交流会が開催されました。

お忙しい中、院外から165名と例年より40名近く多くの方にご参加いただきました。

今回は、佐藤院長就任初の交流会となりました。講演会では、京都大学iPS細胞研究所、准教授長船健二先生をお迎えし、iPS細胞研究の臨床への応用―腎・膵・肝臓領域を中心というテーマでご講演をいただきました。

今後世界の医療だけではなく、生命観・生命倫理をも変えていくiPS細胞についての興味ある内容で皆様方にご好評をいただきました。

ご出席いただいた方々も医師、看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、理学療法士、地域連携関係の事務職、放射線技師など多職種にわたり、今後の地域連携の在り方に大変参考になるご意見を頂きました。特に転院や在宅で患者さんをお願いした先生、看護師さんなどには、日ごろ直接顔を合わせてお礼を申し上げることもできませんでした。この機会に直接お会いすることで、少しは私たちの気持ちを伝えることができたかと思います。

当院は、平成24年11月に地域医療支援病院に承認されました。今後も地域の関係機関との連携をより密にし、各疾患の地域連携パスを積極的に活用するなど、地域住民に切れ目のない医療を提供し、安心できる療養生活を確保できるよう一人一人の患者支援と地域医療の体制に取り組んでいきたいと思っております。



ZOOM  
UP

## 内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチSi」導入



平成25年4月より当院に内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチSi」が導入されました。兵庫県下では当院以外に神戸大学、兵庫医科大学、県立がんセンターにダヴィンチが導入され、最新機種のだヴィンチSiについては県立がんセンターに次いで2番目の導入となります。ダヴィンチは2000年に米国食品医薬品局 (FDA) の認可を受け、その後世界中に急速に普及してきました。特に前立腺癌手術での普及はめざましく、米国では前立腺癌手術の約90%を占めるまでとなり、「前立腺癌手術のゴールドスタンダード」と呼ばれてもよい地位を獲得しつつあります。普及の理由はダヴィンチの特徴であるハイビジョン3D画像や手ぶれ防止機能、自由度の高い関節を持つ鉗子を用いることで従来の腹腔鏡手術の手技的困難さを克服し、より正確な手術操作を可能にしたためと思われます。本邦では2009年に薬事承認され、2012年4月にロボット支援前立腺癌手術が保険収載されたことを契機に普及が進んでいます。諸外国では多くの領域でロボット支援手術が行われており、今後は本邦でも多くの領域に普及すると思われます。当院では保険収載されたロボット支援前立腺癌手術を主に行っておりますが、保険適応の拡大にしたがって他領域のロボット支援手術も行う予定です。

これからも最先端の医療を地域の皆様に提供できるように努力して参りますので、引き続き皆様の御支援、御協力を宜しくお願い申し上げます。



## 放射線治療受入れ休止について

当院では放射線治療装置の更新に伴う工事により、平成25年8月末頃より疾患別に順次、放射線治療の受入れを休止いたします。なお、放射線治療の再開につきましては、平成26年6月を予定しております。

皆様には、本期間中、放射線治療の患者さんの受入れにおいて、ご配慮いただきますよう、何卒よろしくお願いたします。

## 3階東病棟(増床について)

3階東病棟は平成25年6月1日に開設されました。眼科・循環器内科・心臓血管外科の混合病棟です。スタッフは様々な部署から異動となり不安を感じていましたが、テープカットによるオープニングセレモニーの実施により気持ちも新たに頑張っていこう!と期待が膨らみました。

とはいえ、病棟が開設され入院患者様を受け入れながら物品をそろえたり、各業務の手順を決めたり、と忙しい毎日が続いています。さらに新たに経験することも多くあるため、患者様が安全で安楽な療養生活が送れるように、医師や関連部署の協力を得て勉強会を開催し、知識・技術を深めてスキルアップに努めています。

眼科は、日帰り手術や入院期間が短い患者様も多いため煩雑になりがちですが、一つ一つ確認を行いながら時間管理を行い、退院後の生活について丁寧な指導を心がけています。

循環器内科は、心不全や虚血性疾患の患者様が多く、急性期は密な観察、看護を行いながら、早期から退院後の生活を見据えて情報収集をし、多職種と協力しながら調整を行っています。どちらも、対象が高齢者であることが多いため、転倒転落に注意し安全に過ごせるよう援助しています。今後、心臓血管外科の患者様の入院により、術前・術後管理が必要となるため準備を始めています。

患者様が安心して治療を受け、退院後の生活につなげられるように、看護師自身も学びながら、患者様・ご家族に満足していただける治療・看護を提供していきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願い致します。





診療科の紹介

# 外科

### 【スタッフ紹介】

**甲斐恭平**

(第一外科部長 昭和63年卒 専門 一般消化器外科、肝胆膵疾患)

**渡辺直樹**

(乳腺外科部長兼呼吸器外科部長平成元年卒 専門 乳腺疾患)

**松本祐介**

(内視鏡外科部長 平成5年卒 専門 一般消化器外科(特に胃・大腸)、内視鏡下手術)

**渡邊貴紀**

(第二外科副部長 平成8年卒 専門 一般消化器外科、肝胆膵疾患、内視鏡下手術、消化器がん化学療法)

**信久徹治**

(第一外科副部長 平成10年卒 専門 食道がん、内視鏡外科、一般消化器外科)

**遠藤芳克**

(第二外科副部長 平成10年卒 専門 一般消化器外科、肝胆膵疾患)

**戸田桂介**

(内視鏡外科副部長 平成14年卒 専門 一般消化器外科)

**下島礼子**

(医師 平成13年卒 専門 一般外科)

**芳野圭介**

(医師 平成16年卒 専門 一般消化器外科)

**國府島健**

(医師 平成18年卒 専門 一般消化器外科)

**渡邊佑介**

(医師 平成18年卒 専門 一般消化器外科)

**桂佑真**

(医師 平成20年卒 専門 一般消化器外科)

**岡本拓也**

(修練医 平成22年卒 専門 一般消化器外科)

**梶原義典**

(修練医 平成23年卒 専門 一般消化器外科)

**西脇紀之**

(修練医 平成23年卒 専門 一般消化器外科)

### 手術実績

この地域で最も多くの外科手術を行っています。2012年度の手術症例数は1308件で消化管415例、肝胆膵422例、乳腺255例、その他疾患216例です。豊富な経験を元に、さらなる低侵襲を追求し、そして播州の医療機関として地域住民の支えになれるよう、これからも邁進して参ります。



### 当科の診療方針

当科では、呼吸器・乳腺・消化管・肝胆膵の悪性疾患から胆石症、ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患など多岐にわたる疾患を取り扱っています。手術件数は県下有数で、手術内容に関しても移植以外の治療は全て当科単独で施行することが可能です。治療方針は、“高度医療を安全な形で患者様に提供すること”です。大学病院のような研究施設ではありませんが、先端医療を地域住民に提供することが我々の責務であると考えています。

### 当科の取り組み

当科では現在、鏡視下手術に力を入れています。胆嚢摘出術で始まった腹腔鏡下手術は、食道、胃、大腸悪性疾患にも適応されるようになってきました。我々は、今まで施行困難と考えられていた肝胆膵悪性疾患領域にも適応範囲を広げています。腹腔鏡下外側区域切除はすでに当科の標準術式となりました。手術機器の発達に伴い、術式自体も変革が求められる時代です。あらゆる分野において最新技術を導入するために、乳腺、食道、胃、大腸、肝・胆・膵それぞれの専門知識を持つスタッフを揃え、これに対応しています。



### 地域の医療機関の先生へ

修練医を含めスタッフ16名で診察を行っています。力の及ぶ限り地域住民のため癌治療、救急疾患に対応させていただきます。地域医療機関の先生方へは、FAX予約、そして緊急時には電話でのご連絡をお願いします。

## 診療科の紹介

# 小児科

### 【スタッフ紹介】

久呉真章

(第一小児科部長 昭和58年卒 専門 新生児・小児発達)

五百蔵智明

(第二小児科部長 平成2年卒 専門 新生児・循環器)

濱平陽史

(第三小児科部長 平成6年卒 専門 腎臓・低身長)

高橋宏暢

(第一小児科副部長 平成9年卒 専門 血液腫瘍・アレルギー)

柄川剛

(第一小児科副部長 平成10年卒 専門 新生児)

高見勇一

(第二小児科副部長 平成12年卒 専門 神経)

上村裕保

(第三小児科副部長 平成14年卒 専門 新生児)

佐竹恵理子

(平成16年卒 専門 神経)

藤原安曇

(平成18年卒 専門 小児科一般)

大西徳子

(平成19年卒 専門 小児科一般)

井上道雄

(平成21年卒 専門 小児科一般)

金聖泰

濱田佳奈

坊亮輔

堀之内智子

向井祥代

(平成22年卒 専門 小児科一般)

稲熊洋祐

城田佑子

松本真明

宮内寛子

(平成23年卒 専門 小児科一般)



## 当科の特色

当科はありとあらゆる小児疾患に対応し、中・西播磨地域の小児医療の基幹病院としての役割を果たしています。また姫路市休日・夜間急病センターの後送病院を365日担当し、たくさんの小児救急患者を受け入れています。小児病棟(8階西病棟・50床)には院内学級やプレイルームもあり、年間2,000人以上の小児患者の入院診療を行っています。感染症などの急性疾患のみならず、慢性疾患や摂食障害などの心身症など、幅広く診療を行っています。新生児部門はNICU12床・GCU24床の計34床で、新生児専用救急車を有し、24時間・365日体制で小児科医師と看護師が中・西播磨地域の産科に出向いてハイリスク分娩の立合いや病的新生児の搬送を行っています。また産婦人科では多くのハイリスク妊婦の母体搬送を受け入れており、地域周産期母子医療センターとして機能しています。



## 地域の医療機関の先生へ

姫路市小児科医会の先生方が、地域医療にかける熱意と責任感を持って休日・夜間急病センターで小児一次救急をしっかりと行っているため、われわれは重症患者さんの診療に専念できています。このことは小児科を志す若い医師や学生たちにも大変好評で、多くの医師・学生が当科での研修を希望してくれています。このような素晴らしい環境で診療できることに感謝し、これからもレベルの高い小児医療を提供していきたいと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

## 診療実績(平成24年)

外来患者延数26,142人(1日平均107人)、入院患者延数29,715人、平均在院日数8.6日、小児病棟小児科入院数2,230人、救急車受け入れ1,226人、小児病棟での人工換気症例44人、NICU・GCU入院数574人、超低出生体重児(1,000g未満)24人、人工換気症例180人

## 平成25年度 姫路赤十字病院 研修会開催予定一覧

研修名	開催場所	対象者	定員	開催日程	締め切り
第20回地域連携カンファレンス	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成25年5月16日(木) 17:30～19:00	開催終了
がん診療に携わる医師に対する 緩和ケア研修会	大会議室	医師、看護師、 薬剤師等	医師:24名 看護師、薬剤師等: 若干名	平成25年5月18日(土) 19日(日)	開催終了
がん化学療法セミナー	多目的ホール	臨床研修医、医師 薬剤師、看護師	なし ※申込み多数の場合はお断り する場合がございます	平成25年5月30日(木) 31日(金)	開催終了
化学療法看護研修会	多目的ホール	看護師 ※がん化学療法セミナー を受講された方	看護師:20名程度	平成25年7月2日(火) 19日(金)	開催終了
第21回地域連携カンファレンス	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成25年9月19日(木) 17:30～19:00	
緩和ケアフォローアップ研修会	多目的ホール	医師、看護師、 薬剤師等	30名程度	平成25年9月29日(日)	9月(予定)
看護師緩和ケア研修会 (ベーシックコース)	多目的ホール	看護師	20名程度	平成25年10月2日(水)22日(火) 11月12日(火)	9月(予定)
第22回地域連携カンファレンス	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成25年12月19日(木) 17:30～19:00	
看護師緩和ケア研修会 (アドバンスコース)	臨床研修棟 セミナールーム	看護師 ※ベーシックコースを 受講された方	ベーシックコース 受講者の中から希望 される方	平成26年2月4日(火) 18日(火)25日(火)	
放射線治療に関する研修会	多目的ホール	医師、放射線技師、 看護師等	なし ※申込み多数の場合はお断り する場合がございます	平成25年11月7日(木)	10月31日
がんの早期発見に関する研修会 (超音波実技講習会)	多目的ホール	医師、 臨床検査技師	30名程度	平成26年2月開催予定	1月(予定)
第23回地域連携カンファレンス	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成26年3月開催予定	

## ■ 編集後記

これまで月1回お送りしていました「地域連携だより」ですが、このたび内容を大幅にボリュームアップし、「姫路赤十字病院だより」としてお世話になっている医療機関の皆様へお届けすることになりました。姫路赤十字病院について、よりタイムリーで詳しい情報をお伝えしていきます。6月から病床やスタッフの数が増えました。さらに地域の先生方や患者様のご期待に応えられるよう病院職員一丸となって邁進しますので、引き続きご指導の程よろしくお願ひします。

## 姫路赤十字病院の理念と基本方針

## 理念

『わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神に基づき、心のかよう安全で良質な医療を実践します。』

## 基本方針

1. 患者中心の医療  
患者の人権と意思を尊重し、説明と同意により患者とともにチーム医療を推進します。
2. 災害医療の充実  
国内外の災害救護活動に積極的に取り組みます。
3. 地域との連携  
地域と連携し、高度専門医療・急性期医療・救急医療をとおして、地域中核病院の責任を果たします。
4. 優れた医療人の育成  
人間性豊かな医療人を育て、教育・研修・研究の推進により、医療水準の向上に努めます。
5. 魅力ある職場づくり  
職員の働きやすい環境づくりに努め、誇りある職場を創ります。
6. 健全経営  
健全経営を持続し、医療活動を通じて社会に貢献します。

## 患者さんの権利と責務

## 患者さんの権利を尊重します。

1. 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
2. 十分な説明と情報提供を受けることができます。
3. 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
4. 自分の意思で、治療方針を自由に選択・決定することができます。
5. 自己の診療情報の開示を求めることができます。
6. 個人情報やプライバシーの保護を受けることができます。

## 患者さんには安全で良質な医療を受けるために守っていただくことがあります。

1. 患者さんの健康に関する情報を正確に提供してください。
2. 診療内容を十分理解し、納得した上で医療を受けてください。
3. すべての患者さんが適切な治療を受けられるよう、病院の規則や指示を守ってください。